

政策整理番号 17

評価シート(B)

対象年度	H17	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農地整備課
------	-----	-------	------------	-------	------------

政策番号	2 - 5 - 2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開
------	-----------	-----	-------------------

施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化
------	---	-----	-------------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効
概ね有効
課題有

【政策評価指標達成状況から】 有効
 ・指標名:みやぎ産品認知度・シェア(農畜産物(生産額20億円以上の品目数)) 達成度 A
 ・(達成状況の背景)生産基盤の整備等と高品質の生産に向けた技術支援や、園芸施設の大規模化が進んでいる。
 ・(達成度から見た有効性)平成16年は秋冬野菜が高騰したことから、ねぎの産出額が増加した。また、作付面積が増加しているトマトが20億円以上となったことから目標を上回る12品目となった。

【県民満足度(政策)の推移から】 概ね有効
 ・満足度は50点,満足度60点以上の回答者割合が43.1%となり,概ね有効である。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】 有効
 ・平成15年度の冷害を教訓として,平成16年度から稲作経営の安定を図ることを最重要目標として,宮城米ブランド確立と生産,流通,販売力の強化を展開,また晩期栽培等の取り組みから平成16年度は水稻作況指数108と全国1位となった。
 ・平成16年度の大豆・麦の作付については,大豆9,380haで全国2位,六条大麦1,660haで全国4位となっており,基盤整備等の効果が認められる。

【総括】
 ・政策評価達成度,政策満足度,社会経済情勢等から効果があり,本施策は有効と認められる。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	競争力のある水田農業推進事業	6		
2	重	みやぎの水田農業改革支援事業	7		
3	重	米ビジネス推進事業	8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号,4号

適切
概ね適切
課題有

【国,市町村,民間団体との役割分担】 適切
 ・(国)米政策改革大綱,新たな麦政策大綱,新たな大豆政策大綱,水田利用を中心とした土地利用型農業活性化大綱の施策実現に関して中心的な役割を担っている。
 ・(県)県水田農業改革方針,県麦類・大豆生産振興指針の基本施策の策定,経営体育成基盤事業等のストック形成,宮城米づくり,米ビジネス推進の支援・普及啓発について中心的な役割を担っている。
 ・(市町村)生産対策と流通対策の支援,普及啓発等について役割を担っている。
 ・(民間団体)民間団体(JA),事業主体として転作物園芸施設・設備整備,麦大豆関連施設整備等のストック形成を担っている。

【施策目的を踏まえた事業か】 適切
 ・産地間競争を勝ち抜き,消費者ニーズに応える高品質で安全・安心な米・麦・大豆の低コスト生産性向上のための,米づくり推進事業,経営体育成基盤整備事業,みやぎ米需要創出支援事業等の構成となっており,全て施策実現のために必要な事業である。

【事業間で重複や矛盾がないか】 適切
 ・事業対象の業種によりその対策は異なるため,重複や目的が矛盾しない。

【社会経済情勢に適応した事業か】 適切
 ・農産物の価格も低下傾向にあるが,食品や農畜産物等に対する安全で安心への消費者・事業者ニーズが高まっていることから,適応した事業である。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性) 適切
 ・重視度80点で満足度50点,乖離度は30と高い水準にあることから,県民にも優先的に進めるべきと判断される。

【総括】
 ・施策目的,県の役割分担,事業体系,社会情勢,県民満足度調査から判断して本施策の事業設定は適切と判断する。

評価シート(B)

政策整理番号 17

施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化
------	---	-----	-------------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【施策満足度から】概ね有効
 ・施策満足度50点,満足度60点以上の回答者割合が42.6%となり概ね有効である。

【政策評価指標達成状況から】有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋
 ・みやぎ産品認知度・シェア(農畜産物(生産額20億円以上の品目数))については,米,大豆等の10品目である。平成15年の異常気象による冷害で全体的に生産額は下回ったものの,10品目は達成した。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効
 ・平成15年の異常気象の教訓を生かし,気象変動に強い稲作を推進したことから,晩期栽培面積が前年より増加した。

【業績指標推移から】有効
 ・米づくり推進事業に基づく,上位等級指数,経営体育成基盤整備事業による面積の増,気象変動稲作推進事業による取組面積の増などの実績となっている。

【成果指標推移から】有効
 ・稲作作況指数,汎用化水田整備等による麦・大豆の作付面積の増など施策の目指す方向に向かっている。

【総括】
 ・施策満足度からも事業群は概ね有効と認められる。また,産地間競争が激化しているが,業績指標推移等からも米・麦・大豆の生産は順調であることから,事業群は有効と判定する。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】効率的
 ・政策指標は,平成15年の異常気象災害により影響があったが,施策の目指す方向に推移しており,業績・成果指標とも関連して効率的と評価される。

【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】効率的
 ・平成15年の異常気象の教訓を生かし,気象変動に強い稲作を推進したことから,晩期栽培面積が前年より増えており,業績・成果指標とも関連して効率的に進んでいる。

【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】効率的
 ・米の上位等級の指数は,80と高く,また汎用化水田の整備率は59%と前年より2ポイントの増,平成16年の新規事業のみやぎ米需要創出支援事業として取り組んだアイテム販売店舗数は44ヶ所となっている。効率性指標については,全体的に高まっており,効率的に実施されたものと判断される。

【総括】
 ・政策評価指標等は適切に施策の目指す方向に進んでおり,事業群として効率的に実施されていると判定する。
 ・主要農作物の安定供給を図るためには,ほ場整備等のハードと技術支援を一体的に行うことが効率的と判定される。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

・輸入農産物が増加する中,価格も停滞しており,指標値の飛躍的改善は望みがたい状況にあるが,これを少しでも向上させるためには,輸入農産物を念頭に置いた施策の展開とシステムの構築が不可欠であり,県としても国等関係機関に積極的に働きかける必要がある。
 ・こうした中,平成13年度から輸入急増6品目を対象に産地強化対策事業がスタートしており,一定の効果が期待される。
 ・また,県営ほ場整備(担い手型)の面整備との連携により,米・麦・大豆生産の低コスト化の効果が期待される。以上から事業群については適切に実施されたものと評価される。

事業分析カード(業績)

対象年度	H17	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農地整備課
政策番号	2 - 5 - 2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化		

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果								
事業番号	事業名 【担当課室名】	H17 事業費 (千円)	事業の対象 (誰・何を対象として、具体的に)	事業の手段(内容) (何をしたのか、具体的に)	業績指標名 (事業の活動量、「事業の手段」に対応)	H15	H16	H17
						事業費(千円)		
						効率性指標 (3.5E-02は 3.5×10^{-2})		
1	競争力のある水田農業確立推進事業(宮城県米づくり推進事業)【農産園芸課】	4,814	農業者	水稲生育診断会議に基づいた的確な栽培技術の指導・支援を行ってきた。	上位等級指標	62 6,522 9.5E-03	82 6,639 1.2E-02	72 4,814 1.5E-02
1	競争力のある水田農業確立推進事業(土地利用型作物に係る農業生産総合事業)【農産園芸課】	9,025	生産組織	農作物供給体制の確立と産地形成に必要な共同利用機械等の整備を行ってきた。	受益面積(稲、麦、大豆)(ha)	91,890 48,650 1.9E+00	91,830 20,432 4.5E+00	91,580 9,025 1.0E+01
1	競争力のある水田農業確立推進事業(経営体育成基盤整備事業)【農地整備課】	14,453,916	汎用水田の整備	区画整理工事等による整備を行ってきた。	整備面積(ha)	1,518 14,213,850 1.1E-04	1,790 14,724,150 1.2E-04	1,678 14,453,916 1.2E-04
2	みやぎの水田農業改革支援事業(転作営農条件整備事業)【重】【農産園芸課】	95,167	営農組織等	需要に応じた米の生産を図りながら、水田における麦・大豆等の本作化に必要な機械・施設等の条件整備や高位生産への取組を支援した。	麦、大豆作付面積(ha)	13,590 128,868 1.1E-01	12,630 102,865 1.2E-01	12,080 95,167 1.3E-01
3	米ビジネス推進事業(需要創出支援事業)【H17・18重】【農産園芸課】	986	農業者, 農業団体, 消費者等	オリジナルブレンド米「みやぎっ娘」の需要拡大と、新形質米を活用した新規アイテムの開発を進めてきた。	新規アイテム数		2 722 2.8E-03	2 986 2.0E-03
3	米ビジネス推進事業(リモートセンシング導入事業)【H17・18重】【農産園芸課】	18,634	農業者, 農業団体, 消費者等	リモートセンシング精度の向上や「プレミアム宮城米」の提供により、ブランド力の向上を図った。	データ整備地区数		2 7,815 2.6E-04	2 18,634 1.1E-04
3	米ビジネス推進事業(気象変動対応稲作推進事業)【H17・18重】【農産園芸課】	5,795	農業者	水稲生産者に対し、水稲直播栽培の技術向上及び定着化を図る団体を支援した。	直播栽培面積(ha)	173 6,474 2.7E-02	216 8,760 2.5E-02	239 5,795 4.1E-02
3	米ビジネス推進事業(気象変動対応稲作推進事業)(再掲)【H17・18重】【農産園芸課】	-	農業者	水稲生産における晩期栽培の拡大、定着を推進してきた。	晩期栽培面積(ha)	561 6,474 8.7E-02	8,283 8,760 9.5E-01	9,389 5,795 1.6E+00
	[]							
	[]							
	[]							
	事業費合計	14,588,337						

事業分析カード(成果)

政策整理番号 17

施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化
施策概要	産地間の競争を勝ち抜き、消費者に選択される高品質で安心・安全な米、麦、大豆の低コストによる生産を目指します。		

活動(事業)によりもたらされた成果						
事業の目的(意図) (対象をどういう状態にしたのか)	成果指標名 (事業の成果。「事業の目的」に対応)	成果指標値				施策実現までの道筋 (施策の実現にどのように結びついたか)
		H15	H16	H17		
⇒ 水稲生育診断会議に基づいた的確な栽培技術の指導・支援を行い、米の安定生産を図ってきた。	稲作作況指数	69	108	101		⇒ 水稲生育診断会議に基づいた的確な栽培技術の指導・支援を行い、米の安定生産を図る。
⇒ 農作物供給体制の確立と産地形成に必要な共同利用機械等の整備により、稲・麦・大豆の高品質化・低コスト化を図り、安定供給と生産拡大を図る。	農業産出額(米、麦、大豆)(単位:億円)	875	1,071	未確定		⇒ 農作物供給体制の確立と産地形成に必要な共同利用機械等の整備により、稲・麦・大豆の高品質化・低コスト化を図り、安定供給と生産拡大を図る。
⇒ 汎用水田に整備することにより、水田農業の持続的な発展を図る。	汎用水田の整備面積(整備率)	1,518 (57%)	1,790 (59%)	1,678 (61%)		⇒ 水田農業の低コスト化に対応するため、ほ場の大区画化と担い手への集積を推進する。また、麦・大豆の安定生産のための汎用水田を推進する。
⇒ 水田における麦・大豆等の本作物化と高位生産への誘導を図った。	麦・大豆の産出額(億円)	46	52	未確定		⇒ 水田における米の計画生産がなされ、麦・大豆等の本作物化(低コスト・高品質化)と水田農業の持続的な発展を図る。
⇒ オリジナルブレンド米「みやぎっ娘」の需要拡大と、新形質米を活用した新規アイテムの開発を進める。	新規アイテム販売店舗数		44	64		⇒ オリジナルブレンド米「みやぎっ娘」の需要拡大と、新形質米を活用した新規アイテムの開発を進め、より大きな需要の創出を図る。
⇒ リモートセンシング精度を向上させることにより、おいしい米を収穫前に面的に捉え、分別収穫・集荷・出荷していくことを可能とし、「プレミアム宮城米」の提供を通じて、ブランド力の向上を図る。	タンパク含有率判別精度(対実測値)		±0.34%	±0.13%		⇒ リモートセンシング精度を向上させることにより、おいしい米を収穫前に面的に捉え、分別収穫・集荷・出荷していくことを可能とし、「プレミアム宮城米」の提供を通じて、ブランド力の向上を図る。
⇒ 水稲生産者に対し、水稲直播栽培の技術向上及び定着化を図る団体を支援し、稲作経営の安定と産地としての安定供給を図る。	10a当たり収量(kg)	417	465	465		⇒ 水稲生産者に対し、水稲直播栽培の技術向上及び定着化を図る団体を支援し、稲作経営の安定と産地としての安定供給を図る。
⇒ 水稲生産における晩期栽培を推進、定着を図ることにより、生育ステージの幅を拡大し、危険分散を図る。	上位等級比率(%)	62	82	72		⇒ 水稲生産における晩期栽培を推進、定着を図ることにより、生育ステージの幅を拡大し、危険分散を図る。
⇒						
⇒						
⇒						

対象年度	H17	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農地整備課
------	-----	-------	------------	-------	------------

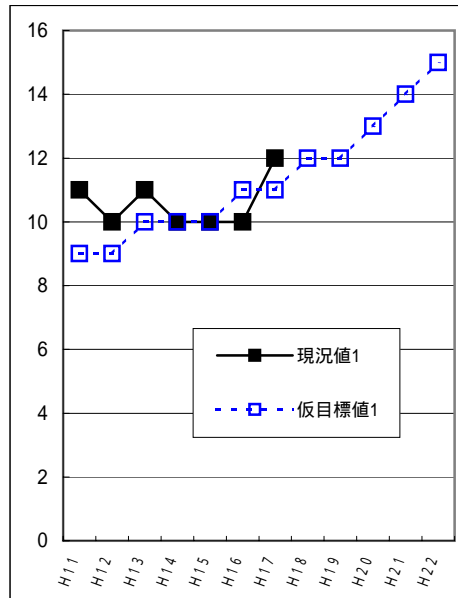
政策番号	2 - 5 - 2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開
------	-----------	-----	-------------------

施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化
------	---	-----	-------------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位	
みやぎ産品認知度・シェア (農畜産物(生産額20億円以上の品目数))		品目	
目標値	難易度	H17	11
		H22	15
評価年	初期値	H11	H12
		H13	H14
		H15	H16
		H17	
測定年	H9	H11	H12
		H13	H14
		H15	H16
		H17	
現況値 (達成度判定値)	9	11	10
		11	10
		10	10
		10	10
		10	10
		11	11
		11	
仮目標値		9	9
		10	10
		10	10
		10	10
		11	11
		11	
達成度		A	A
		A	A
		A	A
		A	A
		A	A
		A	A

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

産地間競争等市場環境の厳しさが増す中で、マーケティングの強化及び生産体制の整備等により本県産品の生産拡大と認知度を向上させ、他産地との差別化を図ることが、本県産業の競争力を強めるため重要であると考え選定した。

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考:第2~4回の推移	H16	H15	H14			
施策重視度(中央値、点)A	80	施策重視度 A	80	80	80			
施策満足度(中央値、点) B	50	施策満足度 B	60	60	60			
かい離 A-B	30	かい離 A-B	20	20	20			
満足度60点以上の回答者割合(%)	42.6	満足度60点以上の回答者割合	55.1	56.3	50.2			

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度:A
 ・生産額20億円以上の品目は、米、大豆、肉用牛、生牛乳、鶏卵、豚、プロイラー、いちご、きゅうり、ほうれんそう、ねぎ、トマトの12品目であり、17年目標を達成した。しかし、米消費の減退や輸入農産物の増加等により販売価格は低迷しており、産出額は伸び悩んでいる。平成16年は秋冬野菜が高騰したことからねぎの産出額が増加した。また、作付面積が増加しているトマトが20億円以上となった。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標が】
 ・本県産米などの競争力を向上させるためには高品質化と低コストとともに、安定生産も重要であり、生産額に係る指標は必要である。なお、施策の目的をよりの確に捉えるため、消費者の視点から見える品質等の事業分析を検討する。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 17

対象年度	H17	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農地整備課
政策番号	2 - 5 - 2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化		

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

【政策評価】施策群設定の妥当性, 施策群の有効性
 ・施策群は, 高品質主要農作物(米・麦・大豆)の生産と流通を促進するものである。
 ・市場が求める高品質な主要農作物生産については, 県, 市町村, 農協, 生産者等が連携して進めるとともに, 低コスト化を図る必要がある。

【施策評価】事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性
 ・主要農作物の安定供給を図るためには, ほ場整備等のハードと技術支援を一体的に行うことが効率的である。
 ・売れる宮城米づくりを実現するには, 関連事業と連携し推進することが効率的である。

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H19年度)の方向性とその説明

方向性	拡充	維持	縮小
-----	----	----	----

【方向性の理由】
 ・激化している産地間競争に勝ち抜き, 水田における主要農作物の安定供給を図るため, 機械等の導入や技術支援, 生産基盤等の整備や良品質麦・大豆の生産促進に向けたハード, ソフトでの支援が必要である。

【次年度の方向性】
 ・米消費量の減少の一方で外食, 中食をはじめ新たなニーズとして拡大傾向する分野も存在する他, 消費者の安全安心志向に応える生産振興も求められている。特に「売れる米づくり」の実現に向けて推進していく必要がある。さらに, 麦・大豆についても, 米と同様に本県の主要作物として位置づけられており, 消費者や市場等の多様なニーズに応えられる品質の生産を, コストの低減を図りながら推進していく必要がある。また, 平成16年に検討した「水田農業改革に向けた取組計画」と今後新たに策定する「園芸特産振興基本計画」をベースに, 各地域における「地域水田農業ビジョン」と連携を図り, 「売れる野菜・花き・麦・大豆等の新たな展開」に向けた新たな施策を打ち出していく必要がある。

主要事業・重点事業の次年度(H19年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名	H17決算見込額(千円)	方向性	方向性に関する説明
1	主	競争力のある水田農業確立推進事業(宮城県米づくり推進事業)	4,814	拡充	米政策改革大綱が決定され, 平成22年度のあるべき姿の実現に向けて, 積極的な取り組みが求められている。宮城県における米づくりの方向性について検討を加え, より一層の推進を図る必要がある。
1	主	競争力のある水田農業確立推進事業(土地利用型作物に係る農業生産総合事業)	9,025	拡充	消費者ニーズへの対応, 品質向上による需要の確保のため, 平成17年度に制定された強い農業づくり交付金をもとに, 産地の特色を活かした安全で安心な農産物の安定的な供給体制の確立を図るとともに, 農産物の生産や産地形成に必要な共同利用機械等の整備を図る必要がある。
1	主	競争力のある水田農業確立推進事業(経営体育成基盤整備事業)	14,453,916	拡充	平成17年度の水田整備の実施見込みは, 67,733haとなっている。平成22年度目標の75,000haの達成に向け継続して事業推進を図る必要がある。
2	重	みやぎの水田農業改革支援事業	95,167	拡充	平成16年度から食糧法の改正により, 従来にも増して需要に見合った米の計画生産とともに, 平成19年度からの新たな経営安定対策に対応し, 需要に応える麦・大豆の本作化の推進を図る必要がある。
3	重	米ビジネス推進事業(需要創出支援事業)	986	拡充	オリジナルブレンド米「みやぎっ娘」の需要拡大と, 新形質米を活用した新規アイテムの開発を進め, より大きな需要の創出を図る。
3	重	米ビジネス推進事業(リモートセンシング導入事業)	18,634	拡充	リモートセンシング精度を向上させることにより, おいしい米を収穫前に面的に捉え, 分別収穫・集荷・出荷していくことを可能とし, 「プレミアム宮城米」の提供を通じて, ブランド力の向上を図る。
3	重	米ビジネス推進事業(気象変動対応稲作推進事業)	5,795	拡充	水稻生産者に対し, 水稻直播栽培, 晩期栽培の推進・定着を図ることにより, 気象変動に強い稲作を推進する。
		合計	14,588,337		